

# 「臨床検査学教育」発刊にあたり

日本臨床検査学教育協議会 理事長

三 村 邦 裕

今般、日本臨床検査学教育学会の学会誌『臨床検査学教育』が発刊されたこと心より喜ばしく思います。日本臨床検査学教育学会は3年前に日本臨床検査学教育協議会が法人化したことを期に、発足いたしました。その経緯は、それまで臨床検査技師の卒前教育に関連した学会はなく、協議会会員校の先生方が教育に関する研究を発表し、相互に議論する場が少ないということに端を発しました。

第1回は法人化記念式典を併せて東京で開催いたしました。さらに昨年8月には九州大学で第3回日本臨床検査学教育学会が開催され、発表者、参加者共に多くの先生方に集まっていた学びの場は軌道にのったものになってきました。このことは、この学会の存在価値とこれからの存続の意義が確立されたものになったことを示していると思います。一方、学会発表する場はできたが、それらの内容をまとめ、研究業績にする雑誌がないということが理事会において論じられ、学会誌発刊の検討に入りました。その結果、編集委員会が立ち上がりこの度、発刊の運びとなりました。

この学会誌発刊の目的は、臨床検査学の教育を中心に広く医療人の育成に関する研究ならびに学会活動を含めた情報交換に資することを目的としております。現在、会員校は73校有り、その内訳は大学41校、短期大学6校、そして専門学校26校であります。教育形態が変わっても、教員は医療や科学の多様にそして急速に変化しつつある状況を認識し、生涯を通じ常に最新の知識・技術の習得に努めなければなりません。教員としての活動は教育、研究そして社会活動等があります。これらを施行するためには自ら自己研鑽に励み、専門研究に加え、新たな教育方法の研究開発を行っていかねばならないと思います。このためには自ら行っている授業方法や教育方法を広く教育機関に公開し、様々な意見交換を経て、それが確立されたものとなれば、臨床検査学の構築にも繋がるものと思います。

このようなことから教育に携わる多くの先生方に加え、臨地実習先の実習指導者の先生方にも学会誌に投稿していただくことで、臨床検査技師教育の発展になり、もって医療にそして社会に貢献することができるものと確信しております。

最後になりますが、この第1号の発刊に携わった編集委員長の岩谷良則先生をはじめ、編集委員の先生方に深謝いたします。

平成21年2月5日